

2026年6月末時点の家計の金融資産は、日本で約2,519兆円、米国では約153.5兆米ドルです。日本では5四半期連続で過去最高を更新、米国でも、4-6月期の株価上昇などを背景として、2四半期ぶりに過去最高となりました。ただし、それぞれを2000年末の規模と比較(中央グラフ)すると、日本で約1.8倍なのに対し、米国では約4.5倍と、拡大ペースに大きな差があります。長期で見て、米国の家計金融資産の伸びが相対的に高い主な理由として、資産形成に積極的な人が多く、運用成果を享受していることが挙げられます。同国では、家計金融資産に占める株式・投資信託(投信)・債券の構成比が63%強におよぶほか、保険・年金においても、確定拠出年金制度を通じて投信が積極的に活用されています。

一方、日本の場合、現金・預金の構成比が非常に高く、株式・投信・債券は28%強にすぎないため、運用の効果は限定的となりがちです。ただし、コロナ・ショック直後の2020年4-6月期以降、家計は投信を買い越しており、特に新NISA(少額投資非課税制度)が始まった2024年1月以降は高水準の資金流入が続いています。

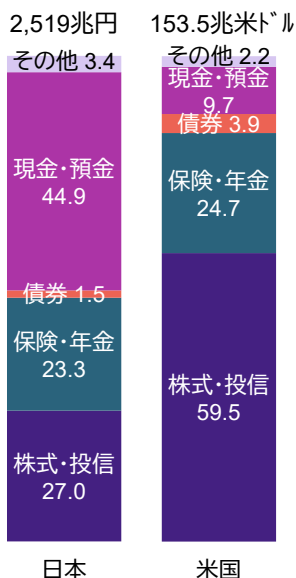
今後についても、定着しつつあるインフレへの対応を迫られることもあり、投信などに家計資金の流入が続くと見込まれます。なお、政府は今年7月、DC(確定拠出年金)制度の改善、NISAの普及・定着などにより、家計金融資産に占める株式・投信・債券の比率を2040年までに40%に引き上げるとの目標を掲げました。

投資にはリスクがつきものであり、運用成果は市況などにより変動します。ただし、一般に、投資対象の分散によってリスクは低減し、さらに長期投資により運用成果が安定化するとされています。また、国内資産に限らず、海外資産にも分散して投資を行えば、世界経済の成長の果実を得やすくなると考えられます。

このように、海外資産も活用し、リスク抑制を図りながら行なう長期投資の一例が、右下のグラフの濃い紫色の線です。この例では、2000年末に内外の主要6資産に等金額投資を行なった結果、足元の評価額は約6.2倍に膨らんでいます。こうしたシミュレーションや家計のリスク許容度を踏まえ、現金・預金を積み上げるのではなく、「おカネ」を投資に振り向け、働いてもらうことを検討してはいかがでしょうか。

日米の家計金融資産の構成比

(2026年6月末時点、%)



四捨五入の関係で合計が100%とならない場合があります。

日銀および米FRB(連邦準備制度理事会)のデータをもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成

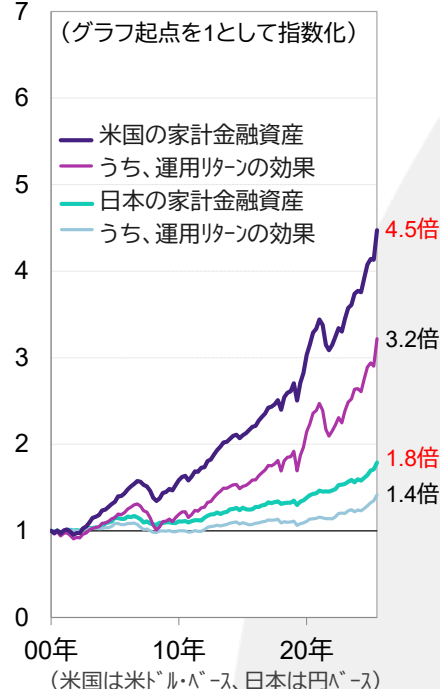
(右グラフでの使用指数)日本株式:TOPIX(配当込み)、日本債券:FTSE日本国債インデックス(円ベース)、先進国株式:MSCI-KOKUSAIインデックス(配当込み、円ベース)、先進国債券:FTSE世界国債インデックス(除く日本、ハッジなし、円ベース)、新興国株式:MSCI Emerging Markets インデックス(配当込み、米ドルベース)、新興国債券:JP EMBI Global Bond Index (米ドルベース) なお、新興国株式・債券の指数についてはアモーヴァ・アセットマネジメントが円換算

●各指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。

●上記は過去のものおよびシミュレーションであり、将来を約束するものではありません。

日米の家計金融資産の推移

(2000年末～2026年6月末、四半期ベース)



長期分散投資のシミュレーション

(2000年12月末～2026年8月末)



信頼できると判断したデータをもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成

＜ご留意いただきたい点＞

■この資料は具体的な商品をご説明するものではないため詳細を記載しておりませんが、元本保証のないリスク性商品のご購入やご売却、保有にあたっては、手数料等をご負担いただきます。■リスク性商品には、各種相場環境等の変動により、投資した資産の価値が投資元本を割り込むなどのリスクがあります。■リスク性商品を中途解約する場合は、ご購入時の条件が適用されず不利益となる場合があります。■くわしくは、三井住友銀行本支店等の各商品の説明書等を必ずご覧ください。



株式会社三井住友銀行
登録金融機関 関東財務局長(登金)第54号
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会